

遊戯に忘れてならぬ三つの要件

土川五郎

音楽の伴ふ遊戯を幼児に與へますには遊戯を精撰する事が極めて大切であります、幼児に遊戯を與へて幼児の教育に資せんとする眞面目な考へ方から云へば中々輕卒には出來ません、況んや自分で遊戯を作つてこれを與へるには殊に慎重な考へ方が大切であります、こゝに三つの大切な要件があると思ひます。

第一、幼兒の心と體とに適合したもの、云ひ換へれば幼兒の世界のものでなければなりません、其曲も其歌も勿論でありますが其振り即表現が

幼兒のものでなければなりません、即ち原始的であるべき筈です、直線的な太い線で現はされねばなりません、微細な筋肉を使ふ様なものは

幼兒を毒するものです、幼兒の神經を疲勞せしむる様なものは決してとるべきではあります。又一つの振りが、修練に修練を経て漸く現はれて来る様なものも又幼兒のものではあります、大人の表現の如き、日本舞踊のある手振の如きは中々六ヶ敷所謂専門の名取りである人ですから容易でない様な振りをやす／＼と取り入れてなさしむるに至つては言語道斷と云はねばなりません、よく専門家が迷惑顔に非難するのも此の點です。

日本舞踊の藝術としての價値は十分に人も我れも認める所であります、が専門的に修練した人が表現すれば實に立派な藝術であります、が所謂素

人が其物まねをして作られた其ものは雛式で藝術の價値がありません、實に見にくいものです。それよりも幼兒の藝術はもつと純です、さつぱりとして、あまり加工されない、心其まゝが現はれたる藝術です、すばつとした落削りの彫刻の様なものです、こゝに幼兒の眞純さが閃めくのです。

こゝに幼兒は沒頭し得るのです、そこに幼兒の藝術の尊さがあるのです、幼兒の圖畫をよく見て、これによつてよく考へて下さると思半ばに過ぎぬ所が感じられるのであります。

第二はリズムと音と振の關係に注意する事です。

リズムは相異なつた種類のリズムが周期的に繰返されて一つの曲が出来るのです、第一小節から第四小節までのリズム第五小節から第八小節迄のリズムが異つて居れば初め四小節の表現の仕方と次の四小節の表現の仕方とは異ならねばなりません、こゝが遊戯には最も大切な事である

間には符點があつてそれが連接されて居る場合には跳躍的の運動が起ります、二分音符のつゞく場合には摺足が起る様に其音符のリズムにより手の振りも足の踏み方も異なるのです、よく其曲中にあるリズムを分解して之れに適した振りが使はねば快感が起りません、何となくやりにくい運動は其のためです、又音の高く上つて行く時と下つて来る時とは又運動の仕方が異なるのです、これを考へずに唯歌詞に捕はれて作られたものは其曲の氣持を破壊します。

其リズムと音と運動とが、ぴつたり合致した所に或何とも云へぬよい氣持ちが出るのです、之れに反してそれが合致せぬ場合には精神的にも身體的にも不快の感が起ります、此の點がかなり遊戯を作られる方にも見遁されて居る事があります、こゝが遊戯には最も大切な事である

と思はれます。

第三には遊戯によつて幼兒の美的感情の基調を作

る時代であるから一部分一部分が美を失はぬ様にせねばならぬ事は誰れも周知の事であります、併し一つの遊戯に面白い手振があるいろいろな美的表現がある、それでよく歌の感じも現はれて居るといふだけでは決して／＼満足すべきものではありません、唯に満足が出来ぬ許りでなく、それこそ大切な物を忘れた何等の價值のないものです。

こゝに最も大切な事は、全體的總括的に一つの藝術になつて居る事です、童謡でも幼兒が云つた其まゝが全體に詩になつて居ない場合が多いのです、断片的には幼兒の生活其まゝがよく表はされて居ても全體的として一つの詩にならねば價値がないと同様に遊戯が断片的によくてもまとめた所に調和があり統一がある一つの藝術

として價値が備はらねばなりません。この點がよく忘れられる點であります。

以上極めて簡単で概括的でありますが此の三つの點に注意して多くの遊戯から選擇せねば幼兒を害ふものであります、又遊戯を作る人は尙更此の點に周到なる注意を願ひたいのです。

尙附加へて申したいのは幼稚園で幼兒に成るべく下品な詞を使はぬ様に仕向けて居て、其唱つて居る歌には隨分下品な詞を平氣で歌はせる事がある、又振りも如何にも下品な手踊り式、寄席藝術の感を起すものを樂しさうにやつて居る事もある、又曲が如何にも俗謡民謡に近い、低級の音樂を使って居る所もある、幼兒の趣味を高級に導くべき責任者が平氣で低級のものを使ふのは實に不思議である、側に聞いて居るものが、ホラ、ソラコリヤ／＼と掛け聲のしたくなる様なものを擇ぶのは先生の頭が低級である事を證するのである。

彼の文部省の小學唱歌を先生自身でよく玩味して御覽なさい(中にはよいと云へぬものもあるが)自ら悟る所があるであらうと思ふ、

ところが幼兒教育者は小學校の先生より種々な

點に於て保育の上に自由を附與されて居るので、

それが却て害を釀すといふ様な弊に陥り易いが、

先生の頭がしつかりして居つて修養が積まれば

積まれる程其與へられた拘束のあまり多くない保育者たる我々は實に手腕を奮ふに都合がよいのであります、御同様に慎重に考へて少しでも幼兒の幸福に發育する様に努めませう。

生徒募集

本科生徒

五拾名

研究科

若干名

右募集ス

出願期日 昭和三年二月二十五日迄

詳細ハ本規則ニヨリテ了知セラルベシ

規則入用ノ方ハ二錢切手封入申出ラルベシ

東京市外大井町五、二〇八

東京昭和保姆養成所

所長 土川 五郎